
平成26年度ボランティア参加促進事業
2020ちばおもてなし隊フェスタ ―千葉のクール発信―
事業報告書



2015. 3

千葉県

特定非営利活動法人 生涯学習応援団ちば

□目 次

実施概要	1
プログラム	2
ごあいさつ	3
千葉県環境生活部県民生活・文化課 特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば	
基調講演	5
「2020 高校生 ボランティア 千葉文化の発信」 千葉敬愛短期大学学長 明石要一さん	
事例発表	9
千葉県立成田国際高校 千葉県立千葉西高等学校 千葉県立幕張総合高等学校	
パネルディスカッション	13
「2020ちばおもてなし隊 ―千葉のクール発信―」 コーディネーター 千葉敬愛短期大学学長 明石要一さん パネラー ロンドンパラリンピック出場・千葉盲学校専攻科 渡邊紫帆さん 県立幕張総合高等学校フランス語ALT ペルイ・トマさん アテネオリンピック出場・県立幕張総合高等学校教諭 秋葉麻帆さん 駐日アイルランド大使館広報・文化担当 アッシュリン・ブレーデンさん 千葉県立成田西高等学校教頭 今井肇さん インタビュー 県立幕張総合高等学校校長 大久保利宏さん	
出演者・協力団体等名簿	21

表紙の絵は2020ちばおもてなし隊をイメージして幕張総合高校の生徒さんに描いてもらいました
左上 小出紗千さん 右上 奥山大樹さん 左下 小林夏芽さん 右下 山口真穂さん

2020ちばおもてなし隊フェスタ —千葉のクール発信—

1 趣旨

2020年のオリンピックイヤーに向け、海外からのお客様のおもてなしや千葉の魅力発信を、高校生をはじめ若い世代の皆さんが部活動やサークル活動などにごろの活動を活かして行うことを通じてボランティア活動への参加を促進しようとするものです。今回のフェスタは、そのキックオフ事業として今後の活動や、それを支える仕組みづくりに向けてのきっかけにしようとするものです。

2 テーマ

2020ちばおもてなし隊フェスタ —千葉のクール発信—

3 主催

千葉県

4 企画運営

特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば

5 後援

千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉県高等学校長協会、千葉県特別支援学校校長会、公益財団法人千葉県青少年協会、千葉県青少年団体連絡協議会

6 日時

2015年（平成27年）1月31日（土） 午後1時30分～午後4時

7 会場

千葉県立幕張総合高等学校大会議室（千葉市美浜区若葉3丁目1番6号）

プログラム

13:30 ごあいさつ

千葉県環境生活部県民生活・文化課
特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば

13:40 基調講演

「2020 高校生 ボランティア 千葉文化の発信」
千葉敬愛短期大学学長 明石要一

13:55 2020ちばおもてなし隊アンケート調査結果について

特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば事務局

14:00 事例発表

千葉県立成田国際高等学校
千葉県立千葉西高等学校
千葉県立幕張総合高等学校

14:50 休憩

15:00 パネルディスカッション

「2020ちばおもてなし隊 ―千葉のクール発信―」

○コーディネーター 千葉敬愛短期大学学長 明石 要一

○パネラー ロンドンパラリンピック出場／千葉盲学校専攻科 渡邊 紫帆
 県立幕張総合高等学校フランス語A L T
 フランストゥールーズ出身 ペルイ・トマ
 アテネオリンピック出場／県立幕張総合高校教諭 秋葉 麻帆
 駐日アイルランド大使館広報・文化担当 アッシュリン・ブレーデン
 県立成田国際高等学校教頭 今井 肇

○インタビュー 県立幕張総合高等学校校長 大久保利宏

16:10 閉会

主催者あいさつ

千葉県環境生活部 県民生活・文化課

主催者の千葉県県民生活・文化課です。

本日は、「2020ちばおもてなし隊フェスタ」に御参加をいただき、ありがとうございます。

千葉県では、ボランティア活動や、市民活動団体の活動など、「県民自らが自発的に地域社会をより豊かにしていこうとする社会貢献活動」を推進しているところですが、その一環として、開催いたしますのが、今日のこのフェスタです。

民間のアイデアを活かした「千葉県ボランティア参加促進事業」の1つとして、「特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば」の御協力のもと実施させていただきました。

御承知のように、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催については、日本がより元気になっていく大きなチャンスとして、みんなで協力して成功させていこうという機運が高まっています。

成田国際空港を有する千葉県においても、開催地の東京都と連携しながら、オリンピック、パラリンピック本番を盛り上げていくことはもちろんのこと、それに先立った国際スポーツ大会や事前キャンプが県内各地で行われ、また、たくさんの外国人観光客の方々が千葉県を訪れることが期待されています。

本番まであと5年の今年に関しましても、千葉県内において、2015年北京世界陸上に出場するアメリカ代表チームの事前合宿の受け入れ、あるいは来年リオデジャネイロで開催されるパラリンピックの車いすバスケットボールのアジアオセアニア予選が行われると聞いております。

そのような中、特に高校生や大学生の皆さんをはじめとした若い方々が、国際交流やおもてなしのボランティアについて理解を深め、行動を起こしていただくとは極めて大切なことであると考えております。本日のセミナーがそのきっかけになれば嬉しく思います。

千葉県の未来にとって、若い皆さんの力はとても大切です。是非、今日発表して下さる方々の話を自分の心でしっかりと受けとめ、いろいろと感じ、もしできれば、何かできるところから動いてみてください。

皆さんの無限大の行動力に期待しております。

本日はよろしく願いいたします。

企画運営団体あいさつ

特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば

本日は、「2020ちばおもてなし隊フェスタ ―千葉のクール発信―」にご参加いただき、ありがとうございます。

本事業は、千葉県の平成26年度ボランティア参加促進事業の受託事業として開催するもので、2020年のオリンピックイヤーに向け、海外からのお客様のおもてなしや千葉の魅力発信を、高校生をはじめ若い世代の皆さんが部活動やサークル活動など日頃の活動を活かして行うことを通じてボランティア活動への参加を促進しようとするものです。

今回のフェスタは、そのキックオフ事業として、千葉敬愛短期大学学長の明石要一氏による基調講演のほか、高校生たちが今年度行いました活動の事例報告、オリンピック・パラリンピック出場経験者や日本に住む外国の方、更には駐日アイルランド大使館の方などをお招きしてのパネルディスカッションなどを行い、今後の活動や、それを支える仕組みづくりに向けてのきっかけにしようとするものです。

高校生など、若い皆さんがこのような活動にどのように参加するのか、また、私たち大人がそれをどう支えることが出来るのかなど、これを機会に大いに意見を交わすことが出来れば幸いです。

最後に、本フェスタの開催に当たりましては、昨年10月以降、学校関係者その他関係団体の方の貴重なご提言、ご意見などを頂きました。また、県立幕張総合高等学校には、本日の会場を快くご提供いただいたほか、ポスター・チラシの原画作成に生徒さんたちのご協力を頂いたところです。

この他、フェスタ開催に当たりましてはお手元の資料にも記載した関係の皆様から多大な協力を頂いております。この場をお借りして関係の皆様にご心より御礼申し上げ、本事業の企画運営を行います特定非営利活動法人生涯学習応援団ちばを代表してのごあいさつといたします。

本日はよろしく願いいたします。

基調講演

「2020 高校生 ボランティア 千葉文化の発信」

千葉敬愛短期大学学長 明石要一

国際文化交流の視点－文化の相対性

レジュメに沿って頭の体操をしてみましょう。

世界には、約70億の人が住んでいます。ご飯の食べ方が三通り。手で食べる人、箸を持って食べる人、ナイフとフォークで食べる人がいます。どの食べ方の人が一番多いでしょうか？皆さんは小学校1年生になったつもりで順番をつけて下さい。次には中学生になったつもり。そして高校生・大学生の皆さんの答えはどうでしょう。



明石要一さん

小学校1年生の場合は、ほぼ全員がトップは箸と答えます。次がナイフとフォーク、そして手がきます。1年生は自分がやっていることは世界でみんなやっているとと思っています。一番幸せです。自国の文化が最高と思っています。だから学校に上がっていくほど不幸が始まります。自覚し始めるからです。中学生はテレビなどで欧米文化を目にすることが多いから、ナイフとフォークがトップにきて、二番目に箸、三番目に手がきます。正解はトップが手です。インドや中国の方が手で食べています。アフリカもインドネシアも、皆さん手で食べている。インドでは右の手を使います。左の手は汚れた手とされています。こういう形で考えていくと面白くありませんか。

次に、日本人の多くの方は天ぷらうどんが好きです。この天ぷらの材料で日本が輸入をせず自国で生産しているものはたった一つ。あとはみんな海外から輸入しています。日本が輸入していない天ぷらうどんの材料は何でしょうか。周りの皆さんと相談してください。

正解は水です。日本は水だけは輸入していません。最近は飲料水をフランスなどから輸入していますが、基本的に水だけは自給自足です。日本の水は非常に柔らかくて、軟水と言います。海外に高校生が旅行に行くとすぐ下痢をします。あれは海外の水は硬水、硬い水だから日本人の胃腸に合わないのです。日本の水は非常においしくていいですよ。

三つ目。高校生の皆さん、知り合いの中学生などがオーストラリアにホームステイに行くのに、日本の土産を持っていきたいけれど、どんなお土産を持っていけばいい、と質問されました。皆さんは、この中学生にどういうアドバイスをしますか？

これは、折り紙が最高です。何故か。お金がかからない、軽い、折ってあげると喜ばれる。キーワードはお金がかからず、軽く、現地で活動でき、紹介できるものです。

この他、穴あきの五円玉も喜ばれます。欧米はみんなコインに穴が開いていません。けん玉もいいですよ。また習字の道具、文鎮や硯は重いけれど、墨汁を持って行って書いてあげるといいですね。また、千葉県の房総うちわ。うちわの骨だけと半紙を持っていき、一緒に絵を描いて貼る。お金がかからず、軽くて、現地で活動できるというのはこういうことです。

博多人形とか着物はいいいのですが、お金がかかります。キーワードは安く、軽くて喜ばれるものをお土産に持っていく。つまり、国際交流は自国の文化、伝統のものをよく理解することです。

ところで、高校生の皆さんは「三国一の花嫁」という言葉を知っていますか？この三国はどこだと思いますか？この言葉は室町時代に広まり、当時世界一を三国一と言いました。それは日本、中国、インドです。室町時代の世界というのはその三つです。それが「三国一の花嫁」という言葉の意味です。そこで応用問題。両国という地名があります。両国とは二つの国だけども、何と何の国かわかりますか。両国、二つの国です。これは東京の武蔵の国と千葉の下総の国、隅田川で武蔵と下総を挟んで二つの国だから両国と言います。

70年ほど前、陸軍中野学校がありました。戦前のスパイ養成学校です。スパイを中国に派遣する時は中国の言葉、服装、着物の着かたなどを勉強します。ところがある時、そのスパイが発見されます。何故か。顔の拭き方です。当時の中国の人は顔を拭くとき、タオルではなく顔を回したそうです。それで分かったのです。言いたいのは、人々の振る舞い、言葉、文化などはずっと続くということです。

千葉県の魅力は何でしょう

千葉県は二つの海流、黒潮と親潮が銚子の沖でぶつかるので魚が沢山集まります。千葉県は二つの海流文化が集まる中心です。

千葉は三つの国、安房、上総、下総からなります。上と下の違い分かりますね。都に近いところほど上です。都から遠いところほど下と言います。岡山は備後とか備前と言いますが、あれは都から見て前と後ろ。私は大分ですが、大分は豊後という。福岡は豊前と言います。都に近いからです。

では、開拓の街、この初富と二和と、三咲と豊四季と五香とか書いてあります。この地名は何の意味でしょうか。相談してみてください。

千葉県は江戸時代には天領、徳川家の庭でした。明治新政府がその土地を没収して、みんなに分けて開墾をさせます。その時に入植した順番です。一番から十三番まであります。初富は初だから一、二和は二番目に入ったから二和。三番目に入ったのが三咲といい、三つが咲くといういい言葉。四番目は豊四季、五番目は五の香り、五香という、六番目に入ったのが六実、七番目が七栄、七つが栄える。八番目がピーナッツの八街です。九番だから九美上、そして十余一、十代二、十余三。

次に、千葉県の人口は620万人ですが、日本国から独立が出来るかできないか。千葉共和国をつくれるか作れないか。周りの皆さんと相談してみてください。

独立するにはまず食べ物が必要です。千葉県は農業県です。農業では日本で三番目ですよ。トップは北海道、二番目は茨城。そして千葉。四番目が鹿児島です。食料は自給自足できそうですね。

次に電気。富津に東京電力の発電所がある。京葉ガスがあり、大多喜ガスがあります。エネルギーも大丈夫でしょう。

千葉には港が二つあります。成田国際空港と千葉港。千葉港の荷物の取扱量は日本で二番目です。空と海の港を持っています。

教育は千葉大があり、敬愛大学もあります。千葉県で4年制大学が30もあります。短大は10です。千葉県の高校生は千葉県内でも十分大学に行ける。悔しいのが、千葉大に千葉県の高校生は300人も入っていません。慶応には380人、早稲田には880人行っています。千葉県の高校生はみんな東京へ行っています。そこで明石は「ストップザ江戸川」、東京へ行かせないことを考えています。十分千葉だけでも高校生、大学生は高等教育を受けられます。

次に欲しいのは遊び場です。マザー牧場やディズニーランドがある。デパートも沢山あります。

あとは防衛。館山、木更津、下総に自衛隊があり、習志野に日本最強の空挺団がある。こういう形で共和国になります。

ではレジュメの5番目、千葉県の花、木、鳥、魚は何でしょうか。花は菜花です。菜の花体操があるくらいです。木は槇の木。鳥はホオジロ、魚は鯛です。鯛は千葉県の魚ですね。

ボランティアの条件

中国ではボランティアを何と訳すでしょう。答えは、中国はボランティアを訳す言葉がありません。中国で北京オリンピックをやった時、ボランティアと書いてカッコして「服務規程」と表記しました。つまり服務です。服務というと仕事をしなければいけない。服務規程ということは、ボランティアが義務なのです。日本の場合は若干違うけど「奉仕」という言葉に近いでしょ。日本にボランティアに相当する言葉があるということは、心があるということです。日本では食堂に行くとすぐ水を持ってくるのですが、中国ではなかなかそうはいきませんでした。全然サービス精神が違います。おもてなしの精神が日本にあるということを押さえて頂きたいと思います。

少林寺拳法の哲学は、半分は自分のために尽くしなさい、残った半分以上を社会のために尽くしましょうというものです。

近江商人を知っていますか。江戸時代に頑張った商人です。近江商人は「三方よし」と言います。売り手がよかった、買った人もよかった、それが結果として世の中のためになっている、これが三方よしです。ボランティアやおもてなしは自分もいいが相手もよく、全体がよくなっていくということで、三方よしの哲学にあいますね。

最後に、ボランティアをするには楽しくなければダメです。義務的にやるよりも楽しんで頂いた方がいい。それが私の今日の結論です。ご清聴ありがとうございました。

【参考・フェスタ当日配布の基調講演レジュメより】

1 国際文化交流の視点－文化の相対性

1) 食事の仕方が三通りある。「手」、「箸」、「ナイフとフォーク」のどれが一番多いでしょうか。

1 小学1年生の答え……………	1位	2位	3位
2 中学生の答え……………	1位	2位	3位
3 あなたの答え……………	1位	2位	3位

2) 日本人は天ぷらうどんが好きです。自給自足している材料は何でしょうか。

3) オーストラリアのホームステイでお土産に何をもっていけばよいでしょうか。ホームステイ先には小学生がいます。

2 千葉の魅力は何でしょうか。

1) 暖流と寒流が出会う場所

2) 三つの国からなる

3) 開拓の街

初富、二和、三咲、豊四季、五香、六実、七栄、八街、九美上、十余一、十余二、十余三は何を意味するか。

4) 千葉県は共和国になれるか

5) 千葉県の花、木、鳥は何でしょうか

3 ボランティアの条件

1) 中国ではボランティアを何て訳すか

2) 日本ではどう訳すか

3) 少林寺拳法の哲学・・・半分は自分のため、残り半分は人のため

4) 近江商人の哲学「三方よし」「売り手よし、買い手よし、世の中よし」

5) 千葉を知り、千葉を好きになり、ちばを良くしたい

6) 「楽しい」をコンセプトに

2020ちばおもてなし隊アンケート調査結果について

特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば事務局

このアンケート調査は、平成26年10月に開催した2020ちばおもてなし隊フェスタ第1回企画会議で、参加者から高校生たちのボランティア活動の実態を知りたいとのご意見があり、千葉県高等学校長協会のご協力を頂き、平成26年11月に実施したものです。

調査対象は191校、うち回答を頂いたのは67校（35.1％）でした。集計結果の主なものは次のとおりでした。

まず、回答頂いたなかで8割以上の学校がボランティア活動に参加していました。問1のボランティア部等と、問3の部活動などで行うボランティア活動を合わせると、回答校67校のうち83.6％となる56校が地域との関わりながらボランティア活動を行っているとの回答でした。

また、このボランティア活動に問4での地域との関わりを加えると、いずれか又はすべてに該当する学校は67校のうち91.0％となる61校でした。改めて地域とのかかわりを重視している学校の様子がうかがわれました。

なお、国際交流の中で日本文化の紹介などに取組むのは約3割の20校でした。

次に、おもてなし隊への参加の意向については「要請があれば参加してみたい」、「条件等が会えば取組みたい」と答えた学校が全体の83.5％となる56校。他方「どちらかというを取組みたくない」、「取組む考えはない」と答えた学校が15％となる10校でした。

おもてなし隊活動の課題としては、多い順に「引率教員の負担増」（48校、71.6％）、「旅費の負担」（42校、62.7％）、「生徒の負担増」（33校、49.3％）、「機材・楽器等の輸送費用」（33校、49.3％）、「言語への対応」（24校、35.8％）などでした。

今後のおもてなし隊の仕組み作りなどを考えるうえで、大変貴重なご指摘であったと思います。

以上で報告を終了します。

事例発表

□千葉県立成田国際高等学校

成田国際高校国際科3年のアギラーです！広松です！

本日は私たちの通う、成田国際高校、通称「成国」の生徒がこれまでにやってきたボランティア活動や地域交流、国際交流についてお話します。

その前に成田国際高校と成田市について簡単に説明します。成田には、海外から年間約1,300万人の観光客が訪れます。中でも私たちの高校の近くにある成田国際空港、成田山新勝寺は観光客に人気のスポットです。私たちの学校はそんな成田市にあります。成国はこの立地条件を活かし、国際交流や地域貢献に力を入れています。

成国はグローバル人材育成のために4つの教育目標を掲げています。

一つ目は語学力の向上です。公立高校には珍しいフランス語・中国語・韓国語の3つの第二外国語をネイティブの先生方から学ぶことができます。また、時事英語、異文化理解、ディベート、ディスカッションなどの授業を英語で行っています。こうしたハイレベルな外国語の授業を通して発信力を身につけます。

二つ目に部活動等に取り組むことで、積極性・協調性を高めています。部活動加入率は93%です。少林寺拳法部は男女ともに全国大会に出場しており、女子は初代インターハイチャンピオンに輝きました。また、イングリッシュディベートサークルは千葉県大会で優勝し、全国大会に出場しました。

三つ目は異文化理解による受容と共生、自己の確立です。外国人生徒や留学生と学校生活を共にし、日常的に国際交流をすることで、異文化への寛容さを養います。

四つ目はボランティア精神の育成です。「地域とともに地域を学ぶ」を掲げ、成田山では、祇園祭での山車引きや弦まつり、太鼓まつりでの通訳ボランティア、米国メディアガイドをしています。

また、地元の小中学生に英語を教えるスチューデントアシスタントや特別支援学校との交流、そして成田で開かれる国際交流イベントの運営スタッフなどもしています。

それでは、これから成国生のやってきたボランティア活動等のうち、「和のコラボ」、「米国メディア関係者成田山参道案内」、「果川外国語高校訪問」、「国際青年交流会議参加者来校」、「台湾高校生修学旅行団訪問」の5つをとりあげ、詳しくお話します。

「和のコラボ」は7月に成田国際空港で開催されました。「和のコラボ」とは外国人観光客を主な対象として、成国の生徒が日本の伝統文化を紹介するイベントです。書道部・茶道部・箏曲部の3つの部活動がパフォーマンスをし、国際科3学年の生徒が司会と通訳を務めました。さらに、日本文化を身近に感じてもらえるように、茶道部がお茶でおもてなしをしたり、書道の体験コーナーを作ったりといった工夫をしました。漢字の持つ意味を英語で説明したり、外国人観光客の方々に名前を当て字の漢字で書いたりすると、とても喜ばれました。

米国メディアについては、昨年11月に成国の生徒が米国メディア関係者に成田山参道を案内しました。

この事業は、国土交通省の関東運輸局が、地方自治体や民間企業等と連携した海外観光プロモーショ



事例発表を行う成田国際高校の生徒の皆さん

ン事業です。認知度向上及び観光客の増加を図る目的で実施され、成田山参道で見られる日本の「歴史」「伝統」「現代」「食」などの魅力を伝えました。成国生が事前に準備した観光コースを下に案内し、風情のある街並みを見ながら、おせんべいを味わいました。参道を案内した後に交流会が行われ、お互いの感想を聞くことが出来ました。

私のグループが案内した方は30回以上日本を訪れた事がありましたが、「日本へ来ても、成田空港周辺には滞在せずに、東京や京都へ行くから、空港からすぐ近くの観光スポットを見ることができて嬉しい。千葉の魅力も発信していきたい。」と仰っていました。海外の人から見た自分たちの地域の良いとことをたくさん知ることができ、有意義な交流会となりました。

果川外国語高校との交流についてです。

私たちは毎年、成田国際高校に来校する、韓国にある姉妹校の果川外国語高校の生徒と交流をしています。交流会では自己紹介をしたり、日本と韓国について質問し合ったり、日本のお土産をプレゼントしたりしました。その後、成田山参道を一緒に散策し、おすすめスポットに案内しました。お昼には天ぷらを全員で美味しくいただきました。韓国人学生が帰る際には、名残惜しさから涙を流す生徒の姿もありました。その後、私たち成国生が修学旅行で果川外国語高校を訪れた際には、温かく迎え入れてくれ、感動の再会を果たすことができました。現在韓国と日本は政治的には良い関係とは言えないかもしれませんが、韓国人と日本人という人対人レベルの友好的な関係をこれからも保っていきたいです。

次に、9月に内閣府が主催している国際青年交流会議の参加者が成国に来校しました。この事業の目的は教育コースの参加者が日本におけるグローバル人材教育の現場を体験し、成国の職員や学生との意見交換を通じて、教育への理解を深める事です。ドミニカ共和国、カタール国、ヨルダンなど6カ国から外国参加青年が訪れ、スーパーイングリッシュの授業をとっている成国の生徒と学校教育についてディスカッションをしました。国によって様々な授業の形態があり、日本と外国の異なる点や良い点に気付くことが出来ました。例えば、日本ではレクチャー型の授業が多く、外国ではディスカッションなどの参加型の授業が多いということです。また、昼食を一緒にとりながら、高校生活や各国の文化などについても語り合いました。この交流を通して、様々な価値観に触れる事が出来ました。

台湾との交流については、昨年5月に台湾の三つの高校の修学旅行団が来校しました。茶道部と吹奏楽部がそれぞれパフォーマンスをし、おもてなしをしました。また、中国語を第二外国語として学んでいる生徒を中心に交流しました。中国語での会話は難しく、ボディランゲージや筆談を交えながらの対話でしたが、伝えたい、理解したいという気持ちを持って互いに接することでコミュニケーションを取ることができました。言葉以外にもお互いの意思を伝え合う方法はあるのだということを実感しました。

このように成田国際高校では、国際交流を通して地域貢献をしています。2020年のオリンピックに向けてこのような活動が成田国際高校だけでなく、成田市、さらには千葉県全体に広がっていくことを願っています。ありがとう！

□千葉県立千葉西高等学校

これから千葉西高校の発表を始めます。

こんにちは。千葉西高校の放送技術部です。2年の莊司貴裕です。

2年の大網春菜です。私はこの学校紹介ビデオでナレーションを担当しました。

1年の青木優汰です。私は今回の学校紹介ビデオの制作を担当しました。

まず、私たちが制作した学校紹介ビデオをご覧くださいます。

(ビデオ放映)



事例発表を行う千葉西高校の生徒の皆さん

私たちの制作した学校紹介ビデオをご覧くださいました。それではまず私たち放送技術部の活動について紹介します。私たちは読み班7人、機材班6人の計13人で活動しています。読み班はアナウンスや朗読を担当し、機材班は映像での記録や編集をします。

ふだんはお昼の校内放送、行事の記録、放送設備、集会でのマイクの設置を行っています。また年に2回のコンテストへ参加もしています。今年は読み班がアナウンス部門で関東大会に、朗読部門が全国大会に進出しました。

また、高校野球千葉県大会での閉会式の司会も担当しました。

それでは私たちが制作した学校紹介ビデオについて説明します。このビデオは中学生のための学校説明会に向けて作りました。制作に当たっては中学生に千葉西高校に入学したいと思ってもらえるようなビデオを目指しました。そのために文化祭などの行事を中心にして生徒たちの生き生きとした様子が伝わるような映像を撮るよう心がけました。

使った映像は全て機材班が作成しました。ビデオでは数分ですが、それを撮るために行事の間中カメラを持って密着しました。部活動の映像も各部の活動予定に合わせるのが大変でした。また沿革の紹介は教頭先生に創立当時のアルバムをお借りしました。当時の様子が伝わる写真を選び映像に収めました。ナレーション原稿の内容は教頭先生や副校長先生の取材を基に作成しています。

このようにして制作したビデオを学校説明会、地域の学校交流会、創立30周年記念式典で上映しました。上映後のアンケートには「ビデオを通じて生徒たちが高校生活を楽しんでいる様子が見られた。自分の子どもにもぜひ通わせたいと思った」、「西高生の一生懸命さが伝わってきた」、「学生だけで作っているのがすごい」など好意的な感想を多く頂きました。映像を使うことで、より生き生きとした西高生の様子を伝えることが出来ました。結果として西高のイメージアップに繋がれたと思います。

今回、学校紹介ビデオを制作することで西高についてさらに知ることが出来ました。また西高がもっと好きになり、より深く知ろうというきっかけになりました。

来年度に向けての改良点はインタビューの量を増やすことです。生徒へのインタビューでより学校の雰囲気伝わるようにしたいです。また字幕を増やしてもっと分かり易くしたいと考えています。初めて見る人にも直感的に伝わるような映像を目指します。更によりリアルな西高生を伝えることにも力を入れます。授業風景など、普段の西高をもっと取材したいと考えています。

これからも私たちはよりよい映像作品をつくるよう努力していきます。

これで千葉西高校の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

□千葉県立幕張総合高等学校

本日はお忙しい中、ちばおもてなし隊フェスタにお越しくださり誠にありがとうございます。幕張総合高校合唱部部長の江尻宗孝と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

僕たち合唱部はこの学校の創立以来から続いておりまして現在では1年生28人、2年生39人、3年生27人の合計94人で活動しております。本年度は多くの方々の支えもありまして、沢山の貴重な舞台を経験させて頂くことが出来ました。その中でも特に印象深かったのは昨年7月に幕張メッセで行われましたキワニスというイベントです。キワニスというのは世界三大福祉団体の一つで、まず子どもたちを第一に、をモットーに国際的活動をしている団体だそうです。僕たちはそんな国際的な舞台で大勢の外国の方々を前に出して歌わせて頂くことによって日本の文化を発信することの大切さを学びました。外国の方々に日本の文化を知っていただくためには、自分たちがまず日本の文化を十分理解していく必要があることを知り、古来から伝わる民謡に挑戦することにしました。今回お送りする曲はそんな日本の民謡と西洋の音楽技法を用いて合唱として表現した、間宮芳生の「男声合唱のためのコンポジション」という曲です。この曲は岩手県の稗搦唄と青森県の権現舞をモチーフにしておりまして、どこか心踊らされるような雰囲気曲です。それではお聞きください。

（合唱「男声合唱のためのコンポジション」を披露）



幕張総合高等学校合唱部の皆さん

パネルディスカッション 「2020ちばおもてなし隊 ―千葉のクール発信―」

コーディネーター

□明石要一さん（千葉大学名誉教授、千葉敬愛短期大学学長、文部科学省中央教育審議会委員）

パネラー

□渡邊紫帆さん（ロンドンパラリンピック出場、千葉盲学校専攻科在籍）

□ペルイ・トマさん（仏トゥールーズ出身、幕張総合高校フランス語ALT）

□秋葉麻帆さん（アテネオリンピック出場、幕張総合高校教諭）

□アッシュリン・ブレーデンさん（駐日アイルランド大使館広報・文化担当）

□今井肇さん（成田国際高校教頭、事例発表校代表）

構成・インタビュー

□大久保利宏さん（幕張総合高校校長）

【大久保利宏】 まず、皆さんの自己紹介からお願いします。

【渡邊紫帆】 千葉県立千葉盲学校専攻科理療科に在籍しています。盲学校ではあんま、マッサージ、指圧、鍼、灸の国家資格を取るために勉強中です。

2016年リオデジャネイロ大会、2020年東京大会の出場を目指して練習しています。

2020年は母国の開催となるので日本一輝ける選手になりたいと思っています。



自己紹介をする参加者の皆さん

【ペルイ・トマ】 フランスのトゥールーズ出身です。去年の8月から幕張総合で働いています。17の時から日本文化に興味があり、日本語を勉強しています。幼いころから柔道をやったり、日本の映画を見たり、本を読んだりしていました。日本文化と日本語を気に入って、日本文化を勉強しました。大学3年の時に中央大学に留学し、日本語を勉強しながらフランス語を教えていました。沢山の日本人の友達が出来て、日本で働きたいと思い幕張総合高校で働くようになりました。

【秋葉麻帆】 県立幕張総合高校教諭の秋葉です。幕張総合高校は2年目ですが、前任校が成田国際高校です。2004年のアテネオリンピックに走り幅跳びで出場。教員になってからも3年間、競技を並行して続け、2010年の千葉国体まで教員をやりながら陸上競技をやらせて頂きました。現在は体育の教員をしながら陸上部の指導に当たっています。

【アッシュリン・ブレーデン】 アイルランド大使館広報文化担当です。日本に来て15年です。最初はJETプログラムで、三重県鈴鹿市で働きました。アイルランドに帰り大使館での仕事が始まりました。12年前、アイルランドはサッカーのワールドカップに出場して、アイルランドのチームは千

葉幕張でキャンプを行いました。それからはアイルランドと幕張の長い関係が始まりました。幕張の皆さんとアイルランドは親しくなり、毎年、幕張でアイルランドのナショナルデーのセントパトリックパレードを行っています。今日の話しも大変興味深いと思います。よろしくお願いします。

【今井肇】 私は成田国際高校2年目です。成田市は地域と高校との関係は非常に密接です。成田国際高校は色々なボランティア活動を行っており、例えば学習支援ボランティアをやっています。隣の印旛郡栄町では町教育委員会主導で学習支援ボランティアをやっていて、成田国際高校も昨年から十数名の生徒が、栄町出身のすでに退職された先生や大学生などと一緒に参加しています。生徒が活躍し、色々な年代の人たちと交流できるボランティア活動などプラスになる活動はこれからも開拓していきたいと思っています。最後に、韓国の果川外国語高校との交流では地域にすごく協力していただいていることもご紹介しておきます。

【大久保】 まず、選手としてどのようなおもてなしをロンドンやアテネで受けたのか、お話しをお聞かせください。

【渡邊】 私が最初に受けたもてなしは現地の空港に降り立った時、日本語で「こんにちは、がんばってね」と言ってくれたものです。ハイタッチや握手をして、写真を撮ってもらいました。その後、荷物を積極的に持って頂き、バス移動時もバスガイドさんが観光名所を日本語で案内してくれました。



渡邊紫帆さん

選手村からはオリンピックスタジアムまで歩いて1時間程度かかりますが、スタジアムまで行く間に現地の方のダンスや歌のパフォーマンスがあったり、ドリンクを配ったり、ちょっとしたお菓子も配ったりしていました。私は視覚障害者なのでダンスなどは見えませんが、手に触って分かる彫刻などもあり、その彫刻はボタンを押すと喋ったり動いたり、何か光が出てくるもので驚きました。

また、選手村から出て競技場に行く間に荷物検査をする際、現地のボランティアの方々が「こんにちは」「おはようございます」「お疲れさま」という声も掛けてくれました。日本にすごく興味があるようで、日本の話題を日本語で話しかけてくれ、とても有難かったです。私が視覚障害者ということで、荷物を持ってくれたりガイドしてくれたりしたのがとても印象に残りました。

また、障害者や高齢者などのために設置されている駅のエレベーターは、日本では健常者の方が使ってしまうという現状があります。ところがロンドンではどんなに混んでいても健常者の方は階段やエスカレーターを使用すると現地の方から聞きました。日頃からそういう風景が見られるということでした。障害者に優しい国、国民だなと思いました。私の印象に残るおもてなしは以上です。

【秋葉】 今、渡邊さんが空港を降りた時の話しをして下さいましたが、私もアテネでの最初のもてなしは空港で受けました。降りた時、待合のところに“welcome home”と大きく書いてありました。普通は「ようこそわが家へ」という意味だと思いますが、その時は「お帰りなさい」ということでした。それは、アテネが近代オリンピック発祥の地で、第1回オリンピックが1896年に開かれて以



秋葉麻帆さん

来、108年ぶりにオリンピックが世界中を回ってアテネに帰ってきたという意味だと言われました。私はそんな記念となる大会に自分が代表として出場できることにすごく感動したのを強く覚えています。最初の言葉が「お帰りなさい」でした。

二つ目は、108年前にオリンピックが開かれたパナシナイコスタジアムにマラソンの応援で足を運びました。パナシナイコスタジアムのトラックは今の競技場が上から押しつぶされたような形をしています。スタジアムは

当時の姿に修復されていました。108年前にここでオリンピックが開催された時、どうだったのかという気持ちになりました。アテネじゃなければきっとこういう気持ちにはなれなかったと思うと、それだけで私はアテネという都市にすごくおもてなしをもらったと思います。

もう一つ、それはジャンプを失敗してしまい、試合の後に落ち込んでいた私に向こうで仲良くなった通訳の方に「いいジャンプだったよ」と声を掛けてもらいました。慰めとかそういう感じではなく、ものすごい笑顔で「nice jump good jump すごくいいジャンプだった」と。結果は残りませんでした。そういう声を掛けてくれる人がいました。

この三つが私にとってアテネで頂いたおもてなしだったと思います。

【大久保】 日本にはこういうものがあるので、もっと積極的にアピールしてはどうかということについてトマさん、ブレーデンさんからお話しを伺いたと思います。また、明石先生からもこの点についてお話しをお願いします。

【トマ】 外国の方に聞いてみると東京というと高層ビルや渋谷の大きな交差点のイメージを持つ人が多いと思いますが、中心部から少し離れると千葉県でも神奈川県でも、自然がとても多くあります。外国の方はあまり知らないと思います。千葉県では海もあり、山もあります。安房とか、夷隅、鴨川など自然が豊かな所が多いので、それをもっと強調したほうがいいと思いました。

おもてなしということでは、日本では当たり前と思っていますが、日本のサービスはとてもいいと思います。レストランやコンビニなど、いつも開いているところが多いし、交通手段もしっかりとします。人々も優しく礼儀正しくて、電車に乗るときに日本人はしっかりと並んで、絶対に横から入らないです。

【ブレーデン】 日本のイメージは、トマさんと同じですが、日本の自然がいっぱいあること、山とか海とか緑のことをもっと海外の人にアピールしたいです。オリンピック・パラリンピックまで5年ですが、自然や環境を考えて、公園などに海外の人がいけるようにしたらよいと思います。日本に来てどこに行けばいいか知らないと思います。

もう一つは治安のいいことです。例えばある街で真夜中歩かない方がいいといったようなことが少ないです



アッシュリン・ブレーデンさん

ね。そういうところがとてもいいところです。

電車もすごく正確で、時間を守るのもすごくいいところです。ただ、時々混乱しますけど、そういうところを観光客にちゃんと伝える人がいればと思います。なんで電車が突然止まったのか英語での話がないからさっぱりわかりません。それは大事なことです。

【明石】 お二人の話し非常に参考になりました。

例えば、アイルランドと千葉の繋がりを考えるということでは、アイルランドはじゃがいもが非常に有名で、飢饉のときにジャガイモに救われたと聞きます。千葉県はサツマイモが有名で、青木昆陽の神社があります。そうした縁で、ジャガイモvsサツマイモでアイルランドと千葉が仲良くしようというように展開できる。

また、千葉の良さの発信ということでは、例えば、一般的に北海道が酪農というイメージですが、千葉県が酪農の発祥地です。千葉県は牛や馬のことで非常に有名で、成田には御料牧場があります。そういうことも含めて何でも日本一というものを探して発信することは大事なことです。

もう一つ綺麗で時間を守るということがすごいということを日本人は分かってないが、しっかり発信すべきです。かつて中国の鄧小平さんが来日し、日本の新幹線を見て頂きました。その時鄧さんは、新幹線は素晴らしいがこわくない、30年後は中国も新幹線の技術を開発するが、新幹線が駅に止まってから10分間で清掃する作業は中国ではできない。清掃し、綺麗にカバーかけて、10分で列車が発車することは100年たってもかなわないと言ったそうです。つまり、日本人は清潔さと時間を守って協力して作業する、これが日本人の誇りです。それを理解し発信する。

もう一点はトマさんのおっしゃった海の幸・山の幸。皆さんは海彦山彦というお話しを知っていますね。千葉県には海彦山彦がたくさんいます。千葉の海の幸と山の幸を大いに活用する。一番いい例が千葉の誇る太巻きずしです。太巻きずしは山の幸と海の幸を合わせた、世界に誇れる食べ物です。特に外国の方は太巻きずしの模様に大変興味を持ちます。ぜひ県内191の高校でそれぞれ独自の太巻きずしを作る、それを千葉の海の幸と山の幸の結晶としてアピールしてはどうでしょう。

【大久保】 グローバル人材、世界で活躍できる人材を育成していくということと、今回私たちが進めようとしている外国人観光客へのおもてなしということ、この辺の関係についてトマさんとブレーデンさんに伺いたいと思います。

【トマ】 二つあります。一つは日本人の留学生の数が他の国に比べるととても少ないです。高校生、大学生の皆さんがもうちょっと海外に行ってみるととてもいい経験になると思います。海外に住みたい、海外で働きたいという気持ちがなくても留学するというのは素晴らしい経験だと思います。高校生の皆さん、大学生の皆さんにもっと留学してもらいたいと思います。異文化理解、平和のため、色々意味があると思います。



ベルイ・トマさん

もう一つは、日本では外国語が基本的に英語しかない。

日本で第二言語をもっと多くの学校で学べればいいと思います。英語だけでなく、フランス語、中国語、韓国語などを学ぶことは、色々な意味でグローバル人材育成にいいことだと思います。

【ブレーデン】 似たようなことですが、言葉について、英語はもちろん大事な言葉で、ほかのヨーロッパの言葉も大事ですし、アジアの言葉も成田国際高校で中国語を学習させていますが、ほかの学校でも、趣味でも習うのはどうかと思います。私も若い時に趣味で言葉を覚えたりしました。さっき言っていたんですが、言葉を完ぺきに覚えなくてもしゃべっていたら大丈夫です。コミュニケーションというのは言葉だけではなく表情などと一緒にできればコミュニケーションになります。

もう一つはグローバル人材育成には友達同士でグローバルな問題を考える、共通のテーマをディスカッションするということです。さっきも言いましたが、日本の自然を大事にすることや環境問題とかを友達と一緒に深く考える。自然や環境はグローバルな問題になっていますので、そういうテーマを学生たちにも考えてほしいです。

【大久保】 おもてなし活動の教育的効果について、高校生がこのようなおもてなし活動をやることについてはいかがでしょうか。今井先生からお願いします。

【今井】 ボランティア活動を通じてどんな力が育つのかなということを考えてみました。

本校は成田の参道で通訳ボランティアをやっています。色々な経験をする中で、地域の方や外国の方と接点ができる、そこが非常に大事だと思います。成田国際生徒は、成田市から通学している生徒だけではなく、他の地域からも通学しています。そういう中で自分の生まれ育った地域だけではなく、学校のある成田に愛着と誇りを持てるようになることは大事なことです。



今井肇さん

通訳ボランティアは、今までは成田の参道のお店の地図を頂いて生徒たちが紹介をしていましたが、今後は生徒が自分たちの目線でこういう店やこういう場所があるといったものを、生徒たちがディスカッションしてオリジナルの案内ができたらと思っています。通訳ボランティアを行う中で外国の方、地元の方などとやり取りをする過程でコミュニケーション能力が身についてくると思います。

また、おもてなし活動を通じて色々なホスピタリティ、ホテルとか、観光施設があると思いますが、そういった中で印象の良さ、例えばアイコンタクト、はっきり話す、スマイル、これらがいろんな場面で大事になってくると思います。ホスピタリティに求められるものが日常生活に必ず生きてくるので、印象の良さを生む動作、表情、言葉遣い、態度などを身につけることもできると思います。

更に、異文化の方たちと話をする中でダイバーシティというか多様性を理解し、色々な文化を認め合う気持ちが高校生にも確実に育っています。色々なプラスの意味があると思います。

【大久保】 高校生が空港などでボランティアをすることについて、秋葉先生はいかがでしょう。

【秋葉】 私自身、現役時代に一人でヨーロッパを転戦したこともありましたが。国内の場合は自分の思い通りにことが進む。それが一歩外に出ると思い通りにはいかない。日本は島国ですから、国境が隣接していて他国の人と常に行き来が出来るような国と大きな違いがある。飛行機に乗らないと外の文

化に触れられない、というのが一番大きい。自分自身が海外に行ったときにそれを大きく感じました。荷物を持ち、パスポートを持ち、パスポートチェックを受け、飛行機に乗るという作業は普通あまりやらないので、そこで緊張感が湧いてき、どうしても構えた生活、構えた試合展開、構えた試合結果ということが私には大きかった。これは島国日本の特徴なのかなと思います。

成田国際高校に在籍していた時、学校のボランティア活動や、参加をしている生徒を見て非常にいいなと思いました。たとえば言葉が通じなくてもスマイル。私の選手時代の経験からもスマイル、ジェスチャー、これで何とでもなるということを感じていました。こういった交流、コミュニケーションをとるということはこれから積極的にやるべきだと思います。それはスポーツの世界だけではないとおもいます。

【大久保】 これまでは、高校生の活動としてお話しを伺ってきましたが、障害のある子どもたちがおもてなし隊に参加することについて渡邊さんにお伺いします。

【渡邊】 私は障害者陸上を始めて5年足らずです。私は視覚障害ですが、障害者陸上に関わってから、聴覚障害、知的障害など色々な障害の方と知り合い話しをする機会が増えました。ロンドンパラリンピックに行き、沢山の障害を持ったプレーヤーとお話しをする機会、一緒に食事する機会など、交流を深める機会がありました。閉会式にも出席しましたが、閉会式では障害を持った方たちが何十人もダンスを披露してくれました。その時、障害を持っていてもダンスや歌などのパフォーマンスもパラリンピックを盛り上げていると実感しました。

2020年の東京では高校生や大学生だけでなく、特別支援学校の生徒、障害を持った人たちも参加してほしいと思います。それは健常者の高校生や大学生がなかなか触れられない障害を持った子たちとの交流も含めてです。障害を持っているから何もできないということではなく、例えば知的障害でお話しが出来なくてもダンスや荷物を持つというタイプのボランティアが出来るのでは、と思います。また肢体不自由、隻腕の方とかはお話しが出来るので語学を学んで、流暢じゃなくてもいいのでスマイルと伝えたいという気持ちで参加できると思います。せっかく日本でやるので障害を持っていても健常の方でも、年齢・性別問わずみんなでオリンピッ・パラリンピックをつくってほしいと思います。障害があるので何もできないとか、障害がある人は手がかかるとかではなく、例えば何か一つだけお手伝いしてあげれば障害を持った人たちも皆と同じように握手をしたり、お手伝いをしたりボランティアをしたりということが出来るので、ぜひ2020年、健常者の方と一緒に障害をもった特別支援の生徒についても配慮してほしいなと思います。それをきっかけに、パラリンピックに出たいとか、スポーツをする、語学の勉強したいと思う子どもたちが出てきてほしいので、ぜひ特別支援の生徒たちもボランティアと一緒に参加してほしいと思います。

【大久保】 最後に行政に望むことについて、今井先生と明石先生にお伺いします。

【今井】 行政、観光業界、ホテル業界のホスピタリティ関係へのお願いも含めて、三つあります。

一つは、ボランティアの依頼が本校に参ります。それらには極力お応えするようにしていますが、どうしても生徒を派遣できない時があります。それは授業がある場合などです。本校の生徒も喜んで行きたいのですが、協力依頼の時期や、時間の配慮といった部分を学校側と話し合いをさせて頂ければと思います。いつでも行けるという状況にはないということを企業や行政にもご理解を頂ければと

思います。

二つ目は、このおもてなし隊事務局が非常に大事な存在ということです。何かおもてなし活動をやるときに、一つの行事であれば高校と行事を主催する企業や行政など一対一のやり取りをすれば済みますが、2020年のオリンピック、パラリンピックのように色々なおもてなし活動が考えられるときには、学校としてどこへ問合せをしたらいいのか、非常に困る可能性があります。従って、学校はここに問い合わせればボランティアについて色々聞くことが出来、教えてもらえるというコーディネーター的な機能が必要になると思います。これをおもてなし隊事務局にやっていただくと非常に有難い。特に複数のボランティア活動を動かしていく上では大事なことだと思います。

最後はホスピタリティのボランティア活動についてですが、今後高校生が2020年に向けてインターンシップや一寸勉強させて頂きたい、また、ワークショップにぜひ参加させてほしいということもあると思うので、ぜひそうしたリストと言いますか、ホスピタリティに関連することについては、ここに相談すればいい、という体制を分かり易くしてあると大変ありがたいと思っています。

【明石】 今井先生がほとんど言ってくれたので、一つだけ加えます。2020年オリンピック組織委員会が、780位ある日本の大学は短大にオリンピックを応援してほしいと、各学長・理事長にメールを送ったところ、手を挙げた大学などが約530位ありました。昨年、各大学のトップレベルがオリンピックを支援しようと、早稲田講堂に集まったのが240人程でした。この中で、例えばスポーツの強い筑波大とか日体大は選手候補として参加できます。また英語の単科大学、千葉で言うと神田外語大学、この他に東京外語大学とか関西外国語大学などの7つの単科大学は、5年後、英語通訳をできる方を1万5千人育成するそうです。様々なタレントをもった大学はそういうことが出来る。それ以外に例えば私が学長を務める敬愛短大とか敬愛大学は選手では難しいが、学校の見学精神を活かして暖かい心で接しましょうという形で参加できます。



明石要一さん

つまり、高校総体では、一つの学校が一つの役割を果たすというのが伝統です。そういう形で、5年後を見据えて、例えば千葉の高校191校が国を決めて、3年かけて学習し、言葉を覚えてその国を面倒見るといふのを今から組み立てていくのはどうでしょう。

千葉で11月に国際駅伝をやっていますが、さつきが丘小学校では、5年生の総合的な学習の時間で参加12か国ごとのグループを作り、それぞれのグループで国旗や料理を作ってサービスするという活動もやっています。つまり学校に具体的な形で手を挙げてもらう、そういう仕組みを行政・教育委員会で段取りをつけ、それに合う形の予算をつける。先ほどアンケート結果について事務局長が説明しましたが、参加したいけれど引率の先生の負担が多いとか、参加する生徒の交通費どうするとか、ということもあります。そういう金銭的な支援やコーディネートを行政がやってくれればと思います。

【大久保】 最後に私からも申し上げます。例えば、ブレーデンさんのおっしゃったセントパトリックデーのパレードが幕張で行われているの知らない方が多い。言いたいことは、広報が大事なのに、大変弱いということです。セントパトリックデーは日本の13地区で行われている立派なイベントです。しかし近くにお住まいの方が知らない。それが大欠点です。



大久保利宏さん

今日、報道機関の方もお見えになっていますが、高校生がこうしたところで活躍していることをうまく報道していただければ、高校生はもっと底力を発揮すると思います。褒めたらどこまでも力を発揮します。この底力をおもてなしの活動に一層発揮できるようにしたいと思います。

どうもありがとうございました。

参加者の感想から…（アンケートより）

- 自校の魅力、千葉の魅力をもう一度考えたい（高校生）
- 2020はまだ先と考えていたが話を聞いて5年後が楽しみ（高校生）
- 色々な高校の活躍を聞いてすごいと思い、自分も挑戦したいと思った（高校生）
- グローバルについて具体的なイメージを掴めた（高校生）
- ボランティア、グローバルについて意見や実態を知ることが出来良い経験となった（高校生）
- 高校の発表とディスカッションは面白かった（高校生）
- 2020のために何をすべきかが話し合われていて面白かった（高校生）
- おもてなしの活動について考えていくうえで参考になり、大学での活動に役立てたい（大学生）
- 様々な活動をしている人を知ってよかった（高校生）
- 外国人の視点から日本について何うことが出来てよかった（高校生）
- いい機会であり、自分なりにオリンピック、おもてなしについて考えていきたい（高校生）
- 素晴らしい意見・考えを聞くことが出来、参加してよかった（高校生）
- お話しや発表が良かった。ぜひ高校生のボランティアに協力していきたい。（30代女性）
- 内容も盛りだくさんで充実していた。語学は必要と思う。（40代女性）
- 学習支援ボランティアを地域に広めたいと思った。幅広い年代でボランティアをすれば参加した人の喜びも大きいと思う。（40代女性）
- 素晴らしい会であった。沢山の子どもが今後もボランティアに参加する意欲を持ってほしい。（40代女性）
- 高校生の発表やパネルで貴重な意見を聞くことが出来た。おもてなしについて何をしたらよいか少し理解できた。日本を知り、千葉を知ることが大切。素晴らしい企画であった。（50代男性）
- 「やりたい人」、「やれる人」がうまく活動できる「仕組み」が出来るといい。（50代男性）
- 大変面白い取組みと思う。より多くの高校生が参加できる活動内容になってほしい。（50代女性）
- 高校生と一緒にボランティアをやれるよう何かできることをやってみたい。元気をもらった。（60代男性）
- ボランティアに参加する旅費、機材輸送費などは公的負担が必要。また、参加する生徒たちの補償（保険）について検討の必要がある。（60代男性）
- 地元の活動を知って刺激を受けた。高校生は素晴らしい。（60代女性）
- 事例発表3校の活動内容は素晴らしく、パネルディスカッションのパネラーの報告に興味を持った。内容の深いフェスタなので多くの高校生に参加してもらえばよかった。（60代女性）

2020ちばおもてなし隊フェスタ出演者（敬称略・順不同）

西織哲大（主催者あいさつ） 長谷川昭彦（生涯学習応援団ちばあいさつ）
 明石要一（基調講演・パネルディスカッション コーディネーター） 渡邊紫帆（パネルディスカッション）
 ペレイ・トマ（パネルディスカッション） 秋葉麻帆（パネルディスカッション）
 アッシュリン・ブレーデン（パネルディスカッション） 今井肇（パネルディスカッション・成田国際高校引率）
 大久保利宏（パネルディスカッション 構成・インタビュー）
 アギラー・クライブ・ロアレス（成田国際高校事例発表） 広松沙樹（成田国際高校事例発表）
 大方由希（成田国際高校事例発表）
 大網春菜（千葉西高校事例発表） 荘司貴裕（千葉西高校事例発表） 青木優汰（千葉西高校事例発表）
 小林加代子（千葉西高校 引率）
 江尻宗孝（幕張総合高校合唱部） 永田賢二（幕張総合高校合唱部） 山田寛人（幕張総合高校合唱部）
 室井 望（幕張総合高校合唱部） 藍原涼介（幕張総合高校合唱部） 吉田明弘（幕張総合高校合唱部）
 菊地勇成（幕張総合高校合唱部） 田淵馨太（幕張総合高校合唱部） 村上 藍（幕張総合高校合唱部）
 沼 春樹（幕張総合高校合唱部） 金子麟太郎（幕張総合高校合唱部） 傳 俊介（幕張総合高校合唱部）
 田宮広大（幕張総合高校合唱部） 佐藤 笙（幕張総合高校合唱部） 木村瞭太（幕張総合高校合唱部）
 森林裕貴（幕張総合高校合唱部） 八重沢匠（幕張総合高校合唱部） 小倉正規（幕張総合高校合唱部）
 小山内宙（幕張総合高校合唱部）
 堀井美沙（総司会）

2020ちばおもてなし隊フェスタ ポスター・チラシの原画作成（敬称略・順不同）

県立幕張総合高等学校の生徒の皆さん 小出紗千 奥山大樹 小林夏芽 山口真穂

2020ちばおもてなし隊フェスタ情報コーナー出展・資料提供団体（順不同）

県立成田国際高等学校 県立千葉西高等学校 県立浦安南高等学校 県立幕張総合高等学校 神田外語大学
 千葉県 一般社団法人千葉県子ども会育成連合会 公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー
 公益財団法人千葉市国際交流協会

2020ちばおもてなし隊フェスタ企画会議参加団体（順不同）

県立幕張総合高等学校 県立検見川高等学校 県立成田国際高等学校 敬愛学園高等学校 神田外語大学
 公益財団法人千葉県青少年協会 一般社団法人千葉県子ども会育成連合会 千葉県経営者協会社会貢献部会
 公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー 県立幕張海浜公園 株式会社幕張メッセ
 さわやかちば県民プラザ 千葉県環境生活部県民生活・文化課 千葉県教育庁教育振興部生涯学習課

2020ちばおもてなし隊フェスタ運営スタッフ（敬称略・順不同）

千葉県子ども会育成連合会の皆さん
 小川澄子 白石倅規 滝口希 岩瀬翼 石井翔太 吉田健太郎
 県立幕張総合高等学校の皆さん
 竹野芳弘 ほか幕張総合高等学校教職員の皆様
 古谷嘉正（ちば国際コンベンションビューロー・記録写真）
 玉浦洋子（株式会社幕張メッセ） 上野純司（千葉県立現代産業科学館） 小川信幸（生涯学習応援団ちば）
 種田斉吾（生涯学習応援団ちば） 能勢英雄（生涯学習応援団ちば） 高橋りり子（生涯学習応援団ちば）
 高橋 健（生涯学習応援団ちば）



受付の様子



情報コーナーで



左から 千葉西高校、浦安南高校、子ども会



千葉県

千葉県の展示



会場の様子（千葉県あいさつ）



会場の様子（総合司会）



会場の様子（パネルディスカッション）